

年が明けて
近所に住んでいる
おばあちゃんの家に
晴れ着姿を
見せに行った

その帰り道
大木さんに
偶然出会った

あ：
明けまして
おめでとう
ございます

同じ市内に
住んでいるのは
知っていたけど
街で会うのは
初めてだった



そのまま
大木さんがおうちに
招いてくれた

艶やかだね
楓ちゃん…

ン…

あっ…

大木さんが
私の晴れ着を褒めて
くれる
そのままの姿でセックス
したいと言ってくれた

私もセックス
したかったから嬉しかった
でも、ちょっと
着物が型崩れしないか心配



ンッ

着物は結局
乱れてしまった
だけど、そんな事は
すぐに忘れていた

ミッポ

大木さんとの
セックスで頭が
いっぱいだったから…

シュル

シュ

アッ

ンッ

アッ

シュルル

アッ

アッ

おちんちんを舐めさせてもらった
大木さんも舐めてくれたけど
すごく濡れちゃったから…
大木さんの口元をびしょびしょに
しちゃったかもしれない…

その年の初めての性行為を
「姫始め」というらしい
私の姫始めは大木さんだった

あッ

あッ

ンッ

ズッ

ズッ

オッ
ンッ

ズッ

ズッ

ズッ

おちんちんを入れて
もらいながら
そんな事を大木さんに
教えてもらった
だけど、出し入れされてる時に
雑学を教えられても
ちゃんと覚えてられないよ……



アッ

アッ

あッ

あッ

アッ

ンッ...

アッ

あッ

アッ

はッ

はッ...

そろそろ
出る...

アッ

アッ

ひく

アッ

ひく

いッ...
イッって...
くだっ...さい...
わたし...も、
もう...

イク…!

大木さんのが
膣^{なか}に出てる
私の体の中で
脈打つのを感じた

ふッン…

ン…♡

アパートの室内が少し
肌寒かったから
大木さんの精液が
よけいに熱く感じた

